

高知大教育 西村 久子
○吉川 せつ

1. 合成繊維の洗浄過程における劣化について昨年は特に水による影響を報告したが今回は洗剤による影響をみるを主な目的とした。

2. 試料は昨年どおりポリアミド系およびアセテート系を中心とし、それらとレーヨンおよびポリエステルとの交編品を用いた。組織はトリコット風編地を主とし対照としてナイロン 100%，アセテート 100%織物を用いた。洗剤はABSのビルダー混合品ならびにSDSのビルダー混合品とし、その0.2%溶液(30°C)に24時間浸漬と、常法による洗たく機洗たく30回繰り返したものを比較した。

測定法はオートグラフによる強伸度変化，伸長弾性変化(室温)および100°Cにおける強伸度変化を測定，また寸法安定性やドレープ性の変化等も検討した。

3. その結果いずれの場合においてもポリアミド系のものがアセテート系のものより原布からの変動が少ない。なおいずれの繊維も，交編する繊維でポリエステル，アセテート，レーヨンの順で変動が大きくなる。また織物に比ベトリコット編地の変動は大きい。水浸後と洗剤浸漬後との間に大きい差はないが30回洗たくとの差は大きい。またABSとSDS間の差はあまり認められなかった。